

在宅勤務に関する調査レポート

2020.12

 Bizer team

1. 調査概要
2. 在宅勤務状況と導入後の変化
3. 業務のやりかた（ツール、進捗管理）
4. 在宅勤務環境下での生活習慣

1. 調査概要

1. 調査概要

- **調査対象**

勤務先等で在宅勤務を実施している方

- **回答者数**

259 人

- **調査期間**

2020 年 10 月 6 日～2020 年 10 月 20 日

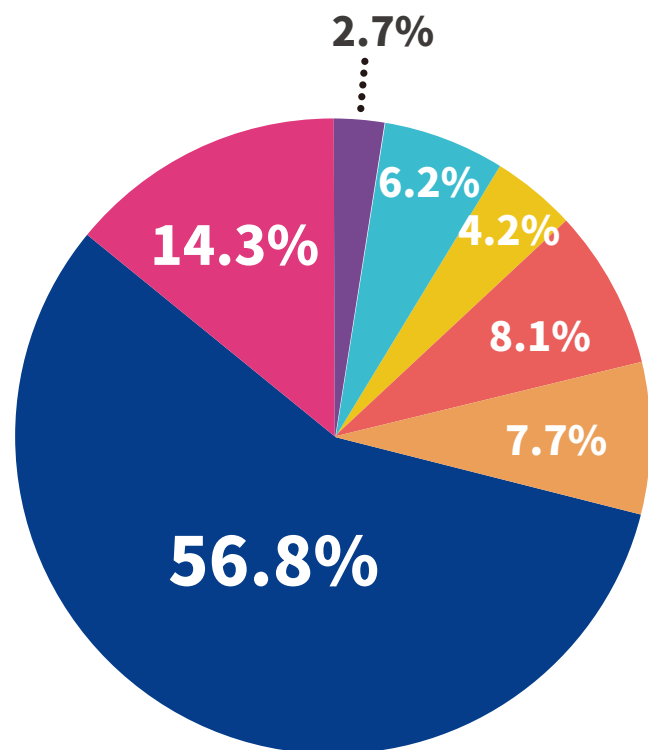
- **調査方法**

インターネット調査

※回答結果はパーセント表示を行っており、単位未満を四捨五入しているため、合計が 100 にならない場合があります。

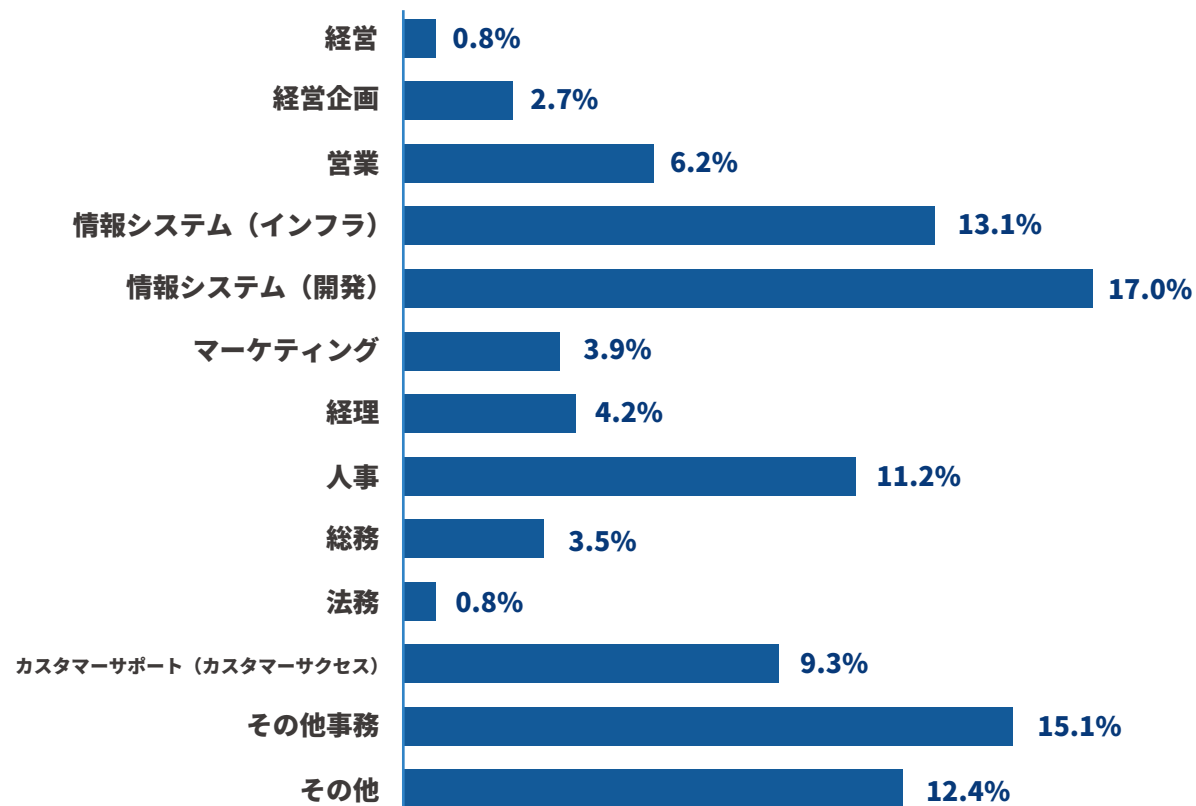
• 回答者属性

従業員規模

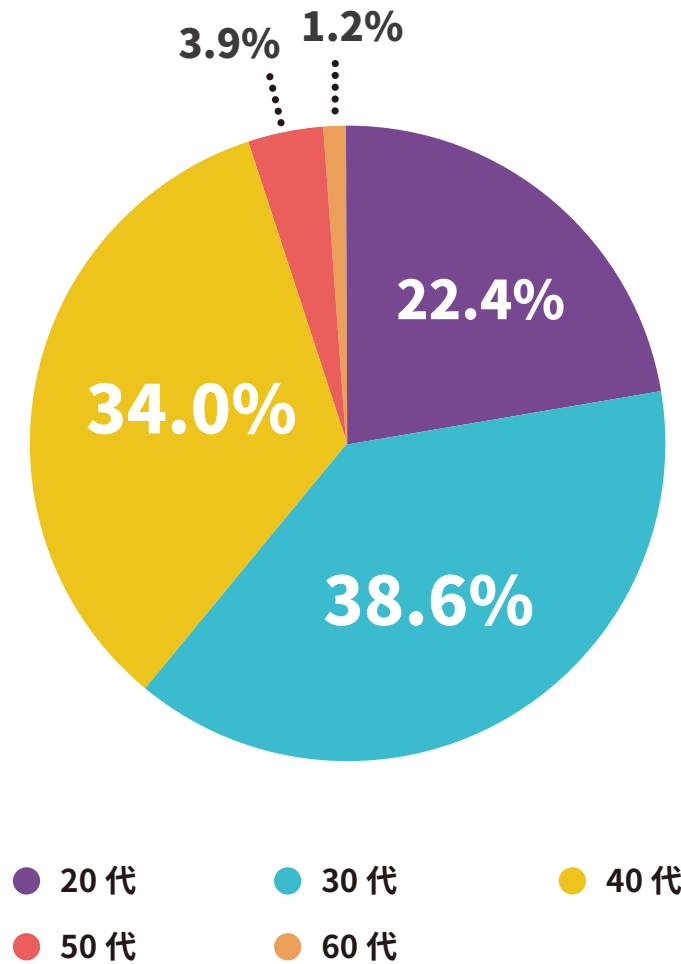


● 1 ~ 10 ● 11 ~ 50 ● 51 ~ 100 ● 101 ~ 500
● 501 ~ 1000 ● 1001 ~ 5000 ● 5001 以上

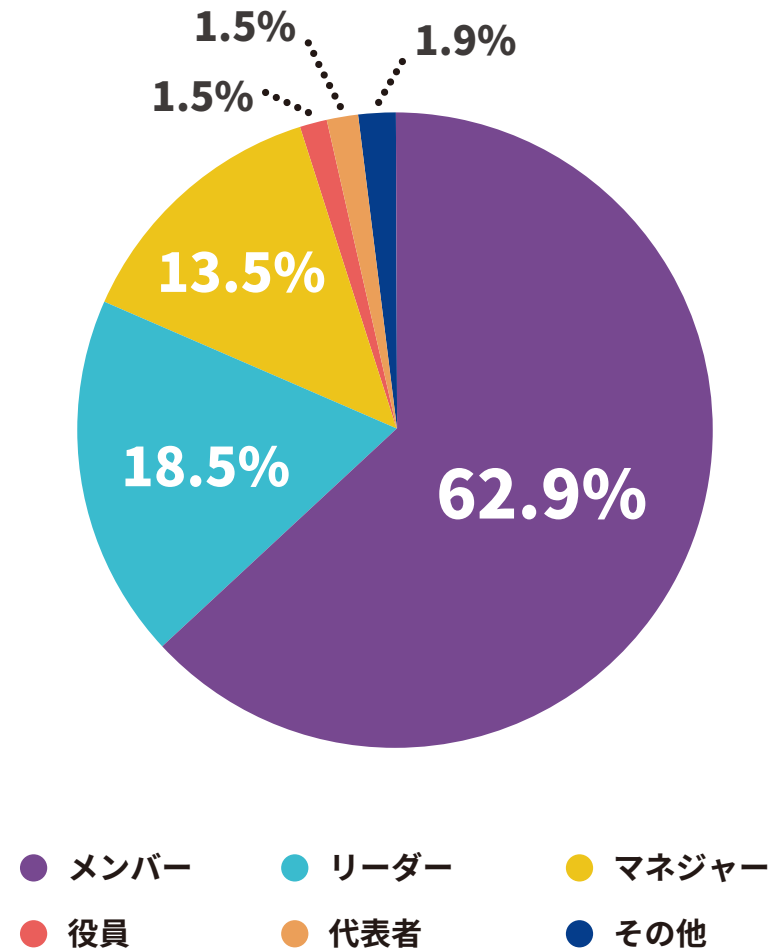
職種・業務



年代



役職



2. 在宅勤務状況と導入後の変化

2. 在宅勤務状況と導入後の変化

・主な気付き

多くの企業が、新型コロナウイルスの影響を受けて在宅勤務を導入しているが、そういった状況でも在宅勤務の満足度は低くなく、**全体のおよそ 63% が「満足している」と回答。**

潜在的な在宅勤務のニーズは以前からあったが、**新型コロナウイルスという一種の強制力によって実現ができた**と考えることができる。

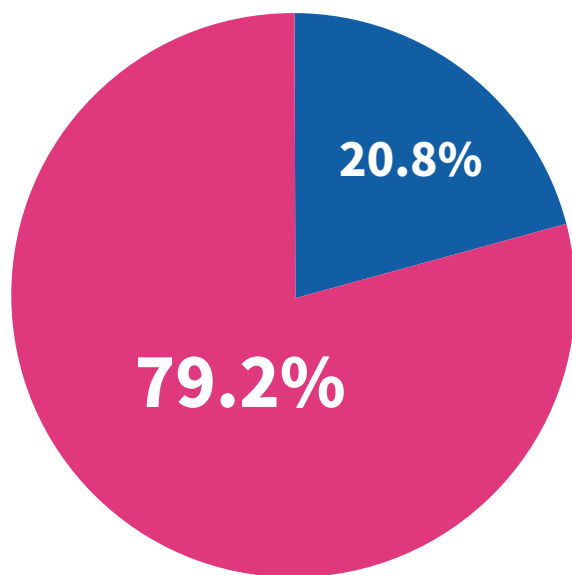
一方で、在宅勤務導入後はコミュニケーションの低下をオンライン会議で補う傾向が見られるため、効率的な業務遂行のためのコミュニケーションが今後の課題か。

・在宅勤務状況

およそ 80%が新型コロナウイルスの影響を受けてから導入している。

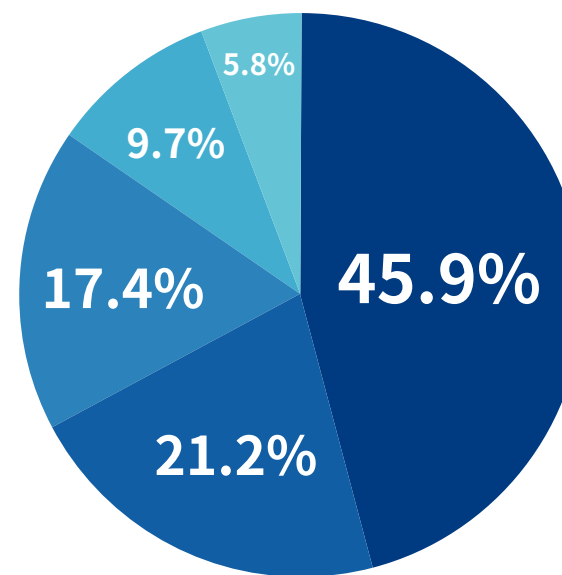
頻度については、「ほぼ毎日」、「週 3～4 日程度」と高頻度が全体の 67%を占める。新型コロナ前から在宅勤務制度があった人や高い頻度で在宅勤務を行っている人ほど、効率化を実感。

いつから在宅勤務を実施しているか



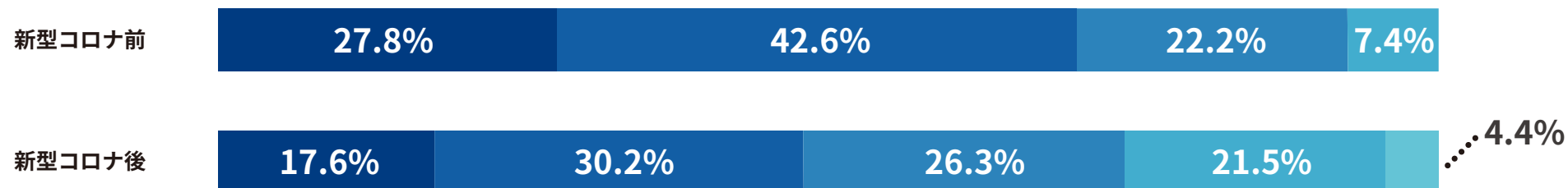
- 新型コロナウイルスによる影響を受ける「前」から
- 新型コロナウイルスによる影響を受けた「後」から

在宅勤務の頻度

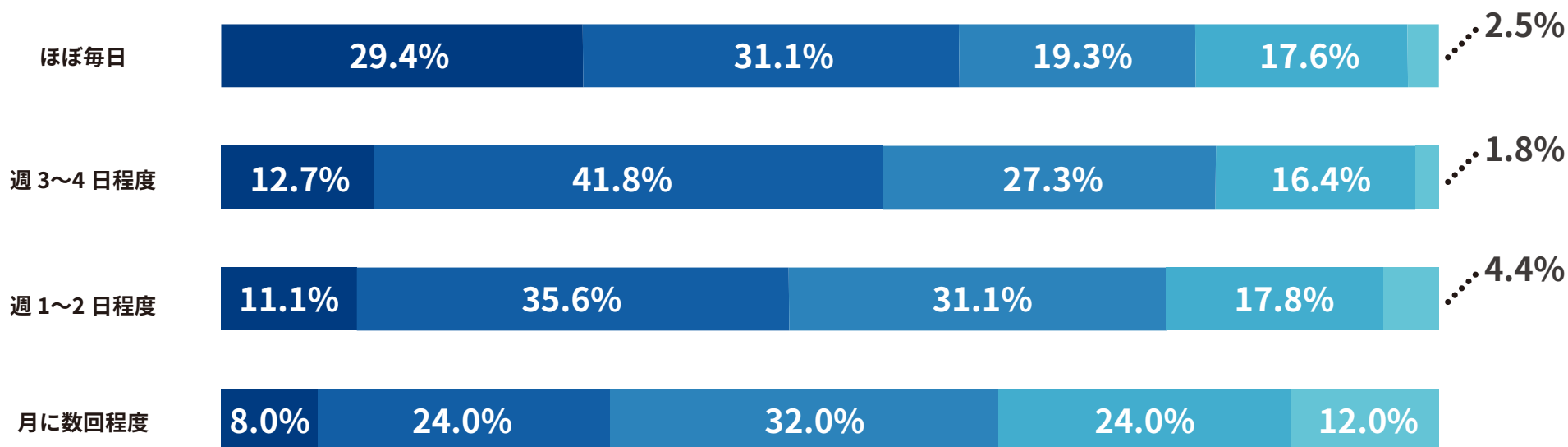


- ほぼ毎日
- 週 3～4 日程度
- 週 1～2 日程度
- 月に数回程度
- その他

・導入時期別の業務効率の変化



・頻度別の業務効率の変化

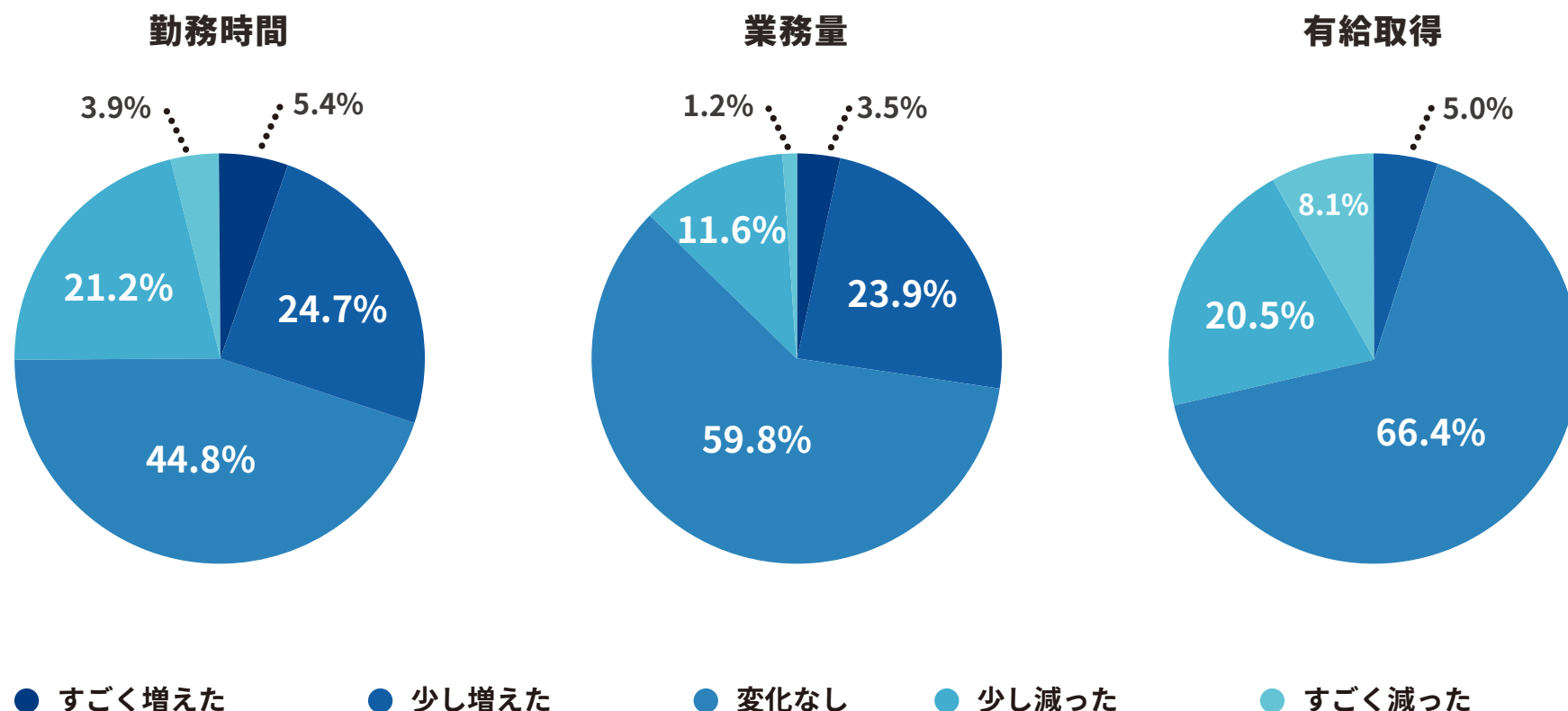


● すごく良くなった ● 少し良くなった ● 変化なし ● 少し悪くなった ● すごく悪くなった

・働く時間や業務量、有給休暇の変化

いずれも、「変化なし」がおおよそ半数を占める。

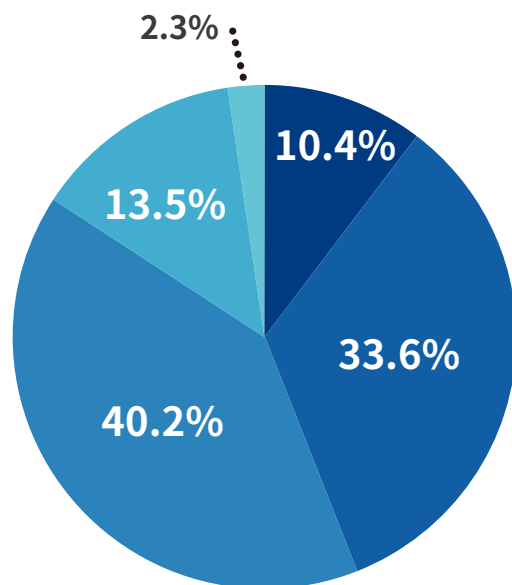
有給に関しては増えたという回答が5%に対し、減ったという回答が28.6%と、全体として取得が減少する傾向に。フレキシブルな働き方によって、多少の用事は有給取得するまでもなく対応できるようになった可能性がある。



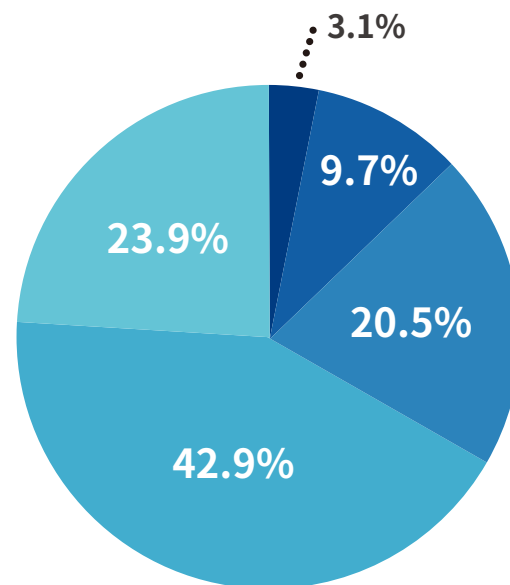
・ 会議とコミュニケーション

在宅勤務導入によって会議は増えたが、逆に社内のコミュニケーションは減るという結果に。会議を増やしても対面時のようなコミュニケーションが実現できていないことが窺える。

会議の数



コミュニケーション量



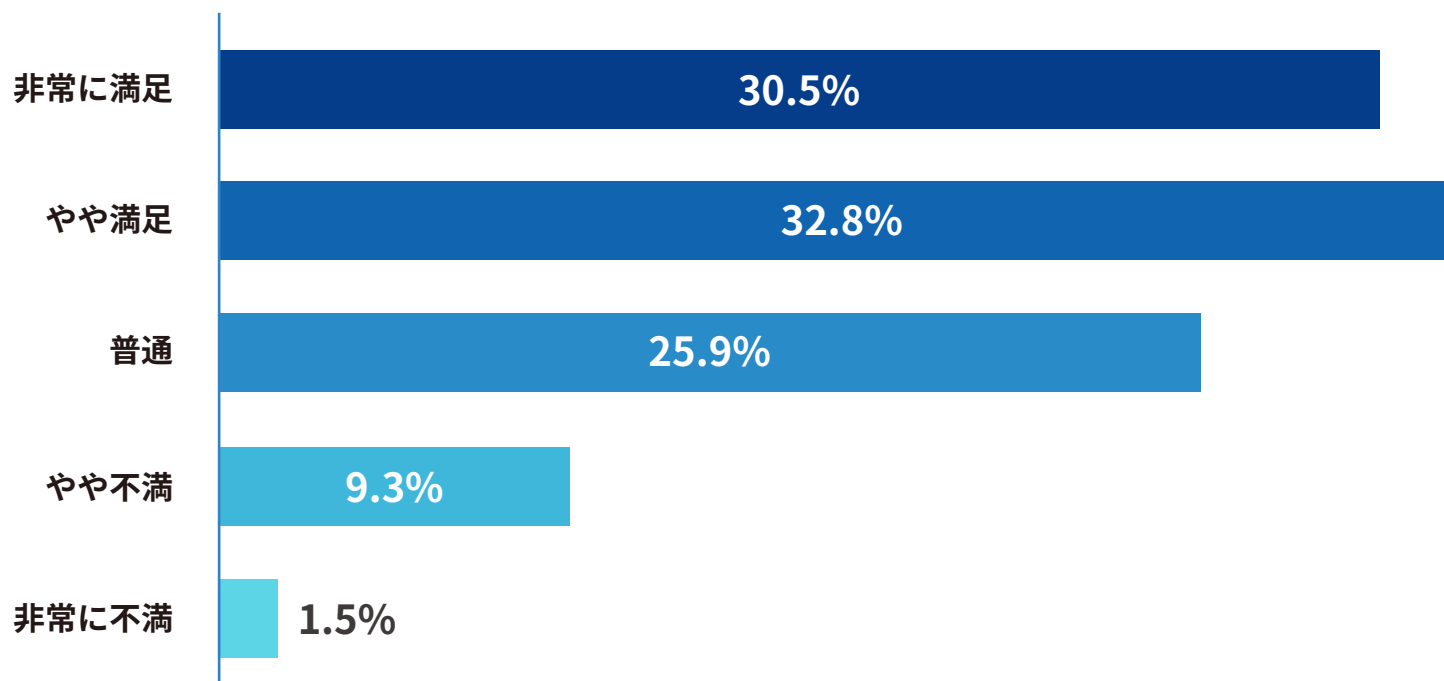
● すごく増えた ● 少し増えた ● 変化なし ● 少し減った ● すごく減った

・在宅勤務の満足度

全体の 63.3%が在宅勤務に満足している。

満足の主な理由は「通勤負荷がなくなった」が多く、不満の主な理由は「コミュニケーション低下」と「集中力・やる気のコントロールが難しい」。

※自由記入欄の回答より抜粋



3. 業務のやりかた (ツール、進捗管理)

3. 業務のやりかた（ツール、進捗管理）

- 主な気付き

Zoom 等のビデオ会議システムは、在宅勤務開始にともなって一気に導入が進んだ一方、カメラを ON にしない人が多く、**対面でのコミュニケーション**を再現するような活用に至っていないケースが見られる。

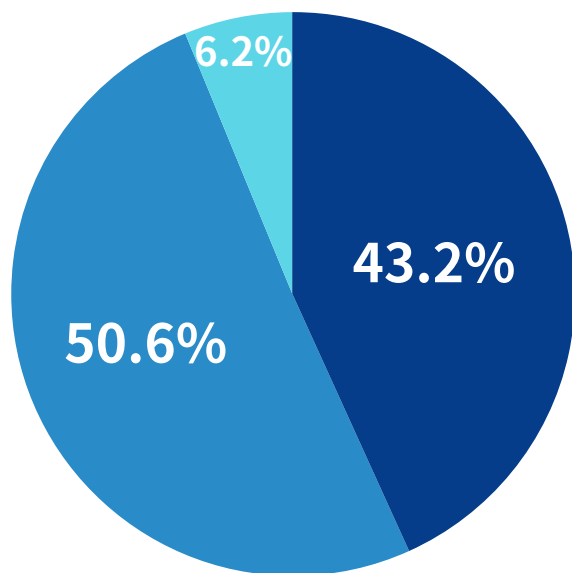
チャットコミュニケーションは、在宅勤務開始前から利用している人が大半を占めるが、**得手不得手によって在宅勤務の効率を二分する**ことが浮き彫りに。

また、大半の人が在宅勤務前からなんらかの業務の進捗管理をしており、**進捗管理が業務効率化につながることを実感している**。

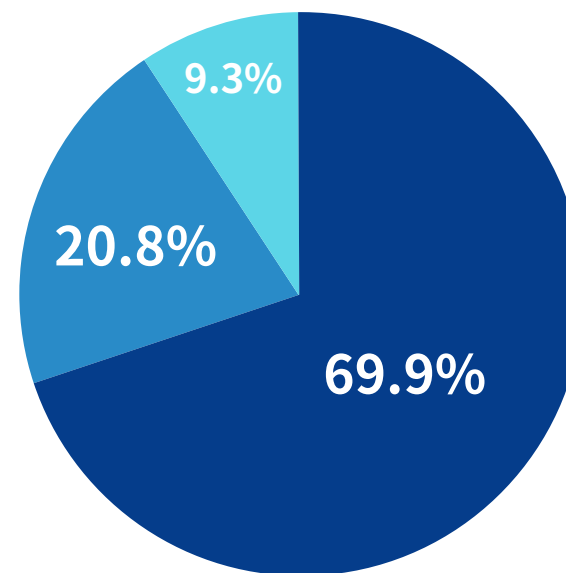
• 使用しているツール

ビデオ会議システム（Zoom 等）はおよそ半数が在宅勤務導入「後」からの利用開始なのに対し、チャットツールはおよそ 70% が在宅勤務導入「前」から利用している。

ビデオ会議システム（Zoom 等）を使っているか



チャットサービス（Microsoft Teams、slack、Chatwork 等）を使っているか



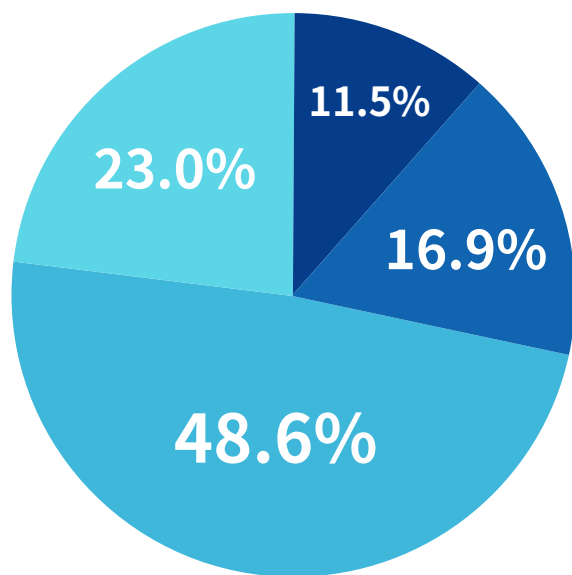
● 在宅勤務導入前から使っている ● 在宅勤務導入後から使っている ● 使っていない

・ビデオ会議システムの使い方①

カメラを ON にすることが多い人は全体のおよそ 30%。ON にすることが多い人は背景設定の機能も活用している。カメラを ON にしない主な理由は「ネットワーク負荷」「会社から指示されている」「身だしなみを整えていない、部屋をみられたくない」。[※]

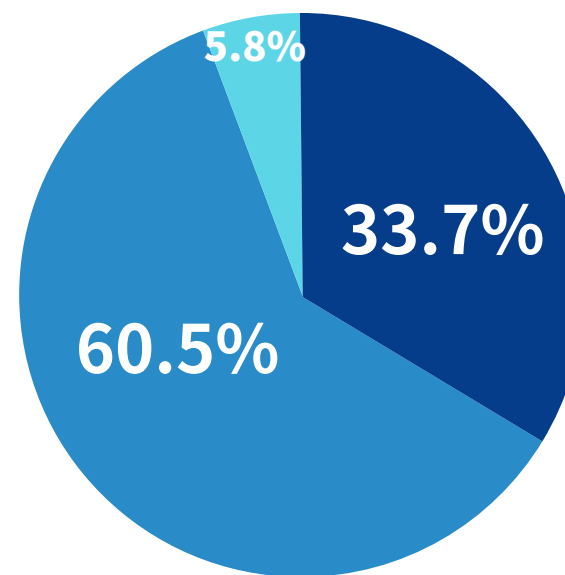
※自由記入欄の回答より抜粋

カメラを ON にしているか



- 常にしてている
- していることが多い
- していないことが多い
- まったくしない

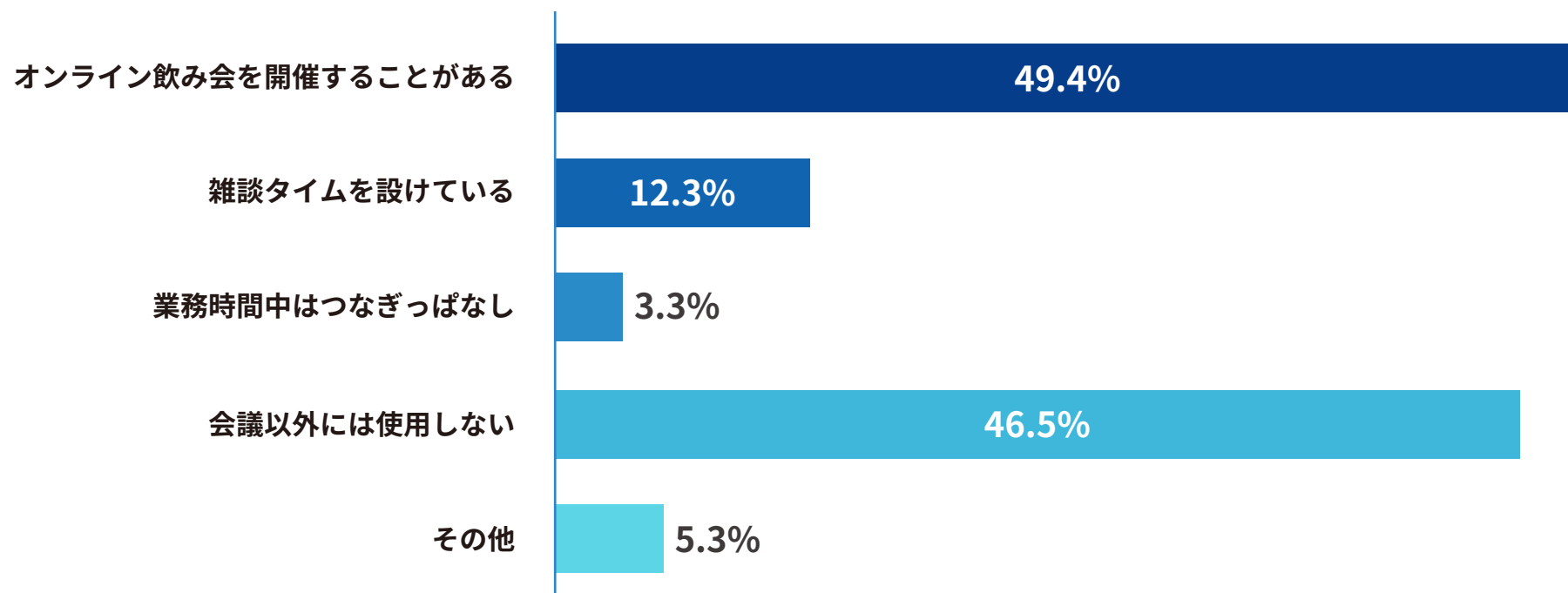
背景の壁紙を設定しているか



- 設定している
- 設定していない
- 設定の機能がない

・ビデオ会議システムの使い方②

業務以外での使い方では「オンライン飲み会を開催することがある」がおよそ半数を占める一方、「会議以外には使用しない」が全体の 46.5% 存在し、使い方が二分している様子が窺える。

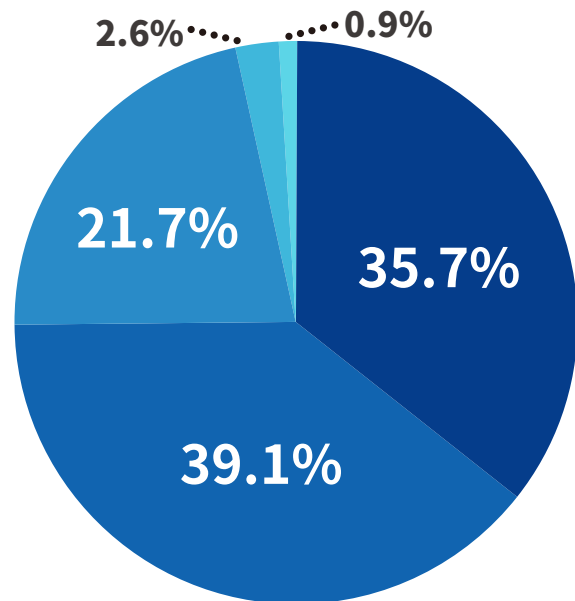


※複数回答

・チャットシステムの使い方①

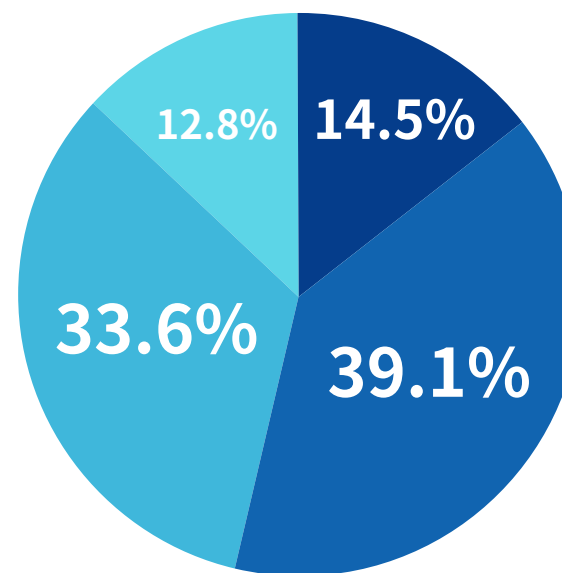
在宅勤務導入によって、およそ 75%がチャットコミュニケーションが増えたことを実感している。チャットで仕事以外の話を週に数回程度以上する人はおよそ 54%おり、職場内でのコミュニケーションが減った分をチャットで補っていることが窺える。

チャットコミュニケーション量



- すごく増えた
- 少し増えた
- 変化なし
- 少し減った
- すごく減った

チャットで仕事以外の話をしているか



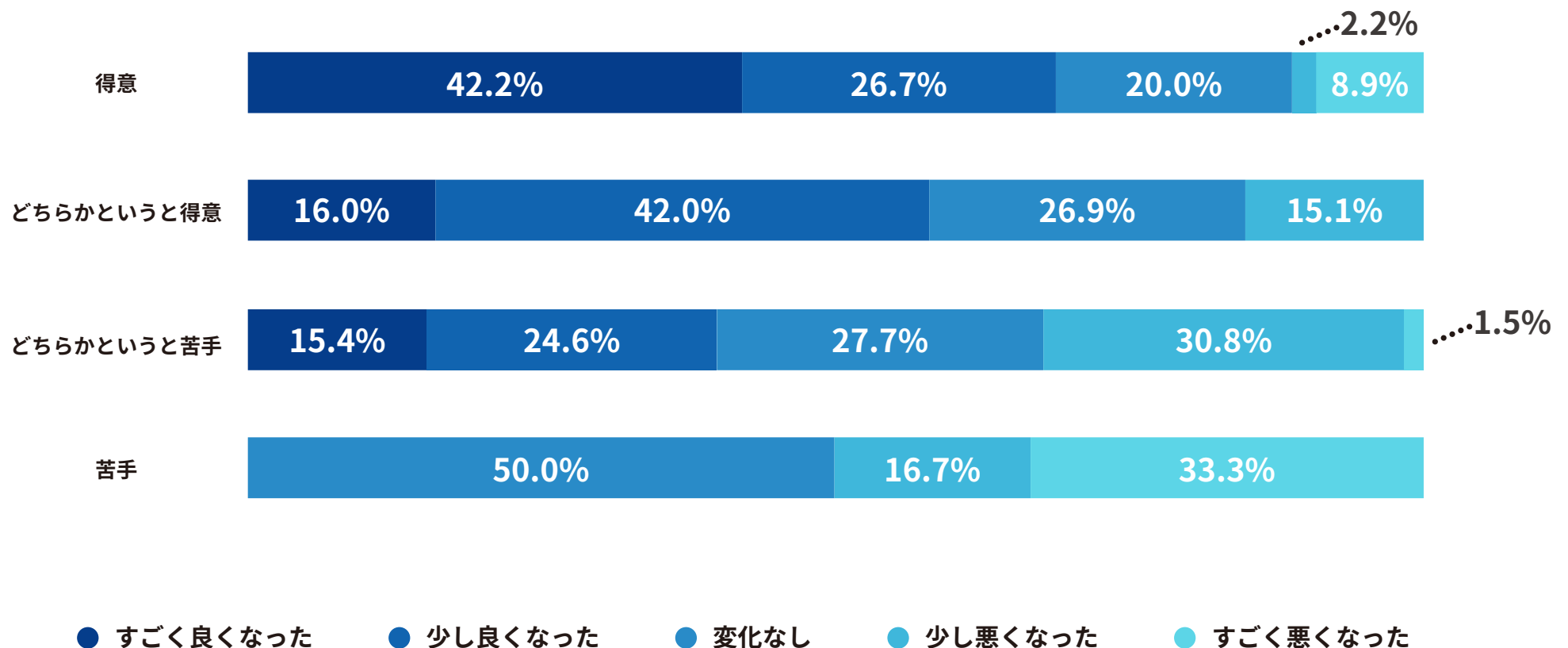
- 毎日している
- 週に数回程度している
- ほとんどしていない
- まったくしていない

・チャットシステムの使い方②

テキストコミュニケーションが得意な人ほど在宅勤務による業務効率化を実感。

テキストコミュニケーションの得手不得手と在宅勤務導入後の業務効率の変化

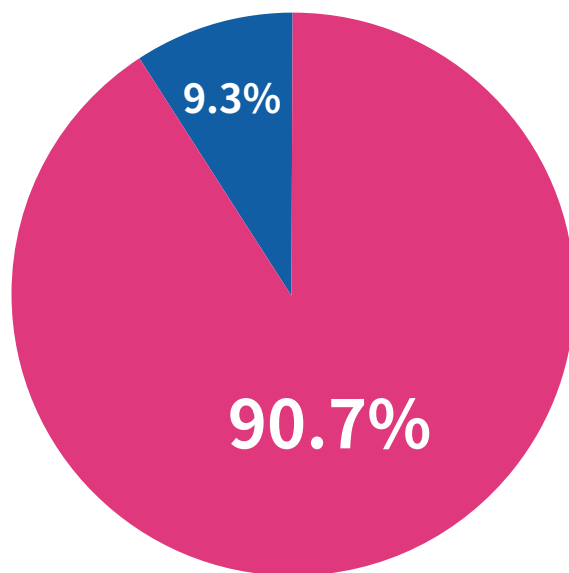
Bizer team



・業務の進捗管理①

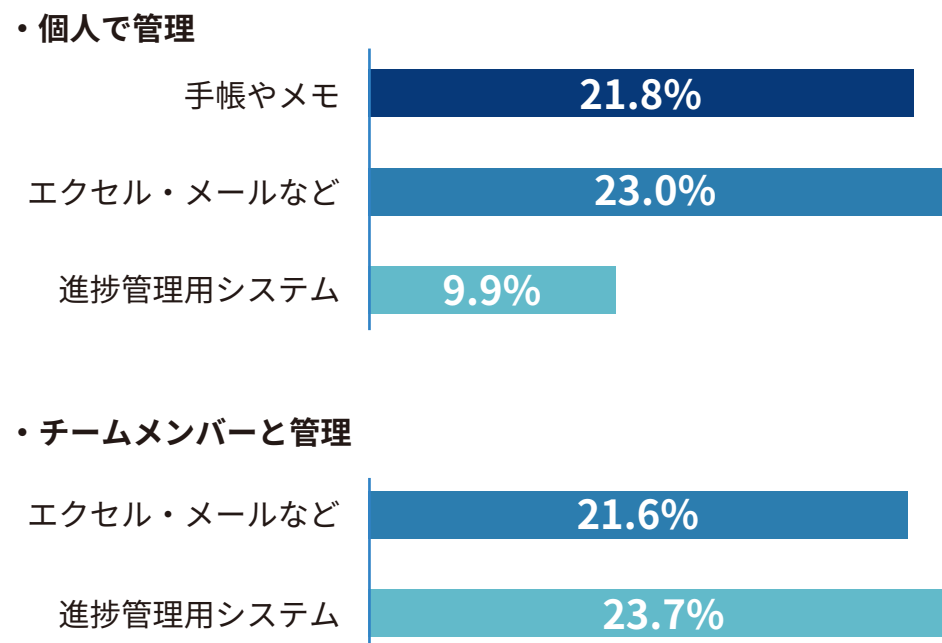
90%以上の方が在宅勤務導入前から何らかの方法で業務の進捗状況を管理している。管理方法は様々で大きな有意差は見られなかった。

進捗管理をいつからやっているか



- 在宅勤務を始める「前」から
- 在宅勤務を始めた「後」から

進捗管理方法

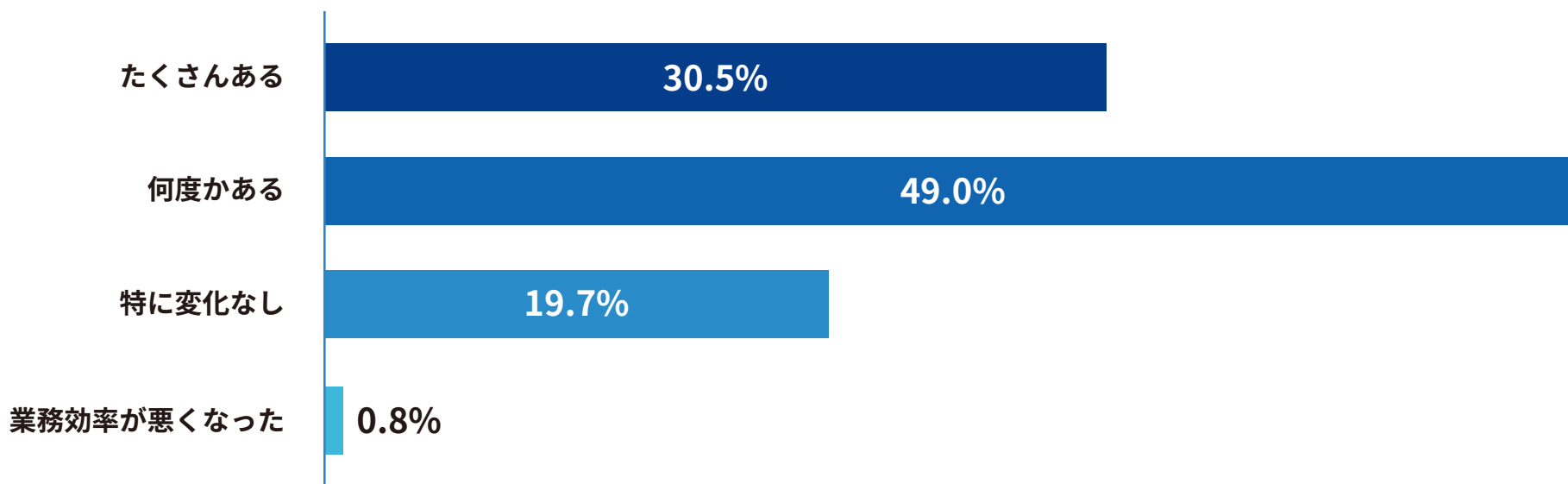


※複数回答

• 業務の進捗管理②

およそ 80%の人が、業務の進捗管理を行うことで業務の改善や効率化につながった経験があると回答。

業務の進捗管理を行うことで、改善や効率化につながった経験はあるか



4. 在宅勤務環境下での生活習慣

4. 在宅勤務環境下での生活習慣

・主な気付き

在宅勤務の増加に伴い、およそ半数の人が自宅で仕事をするための環境づくりの一環で家具・家電を新たに購入していた。

会社側も在宅勤務手当を支給するケースが多く、こういった環境づくりを後押ししていると考えられる。

通勤がなくなったことにより生活習慣にも変化が見られ、各々が、時間やお金の使い方を見直すきっかけになっているのではないかと。

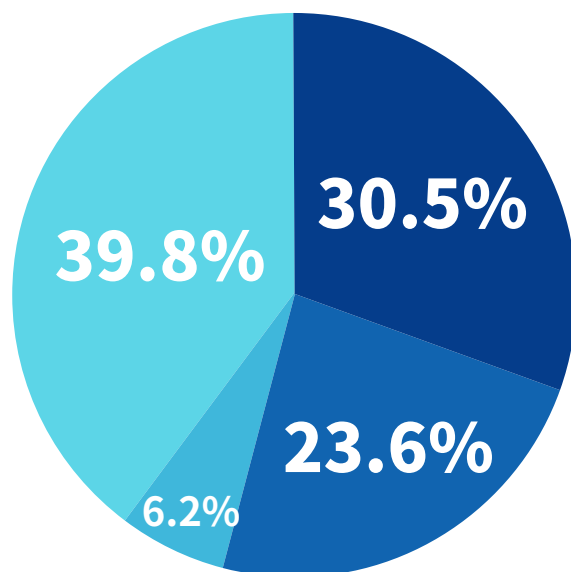
また、着替えの有無で業務効率の変化に大きな差が出た。在宅勤務時の生産性は、いかにオフィスと同じ状態に近づけるかにあるという可能性も。

・ 在宅勤務手当

およそ 60%の人が何らかの形で在宅勤務手当の支給を受けている。

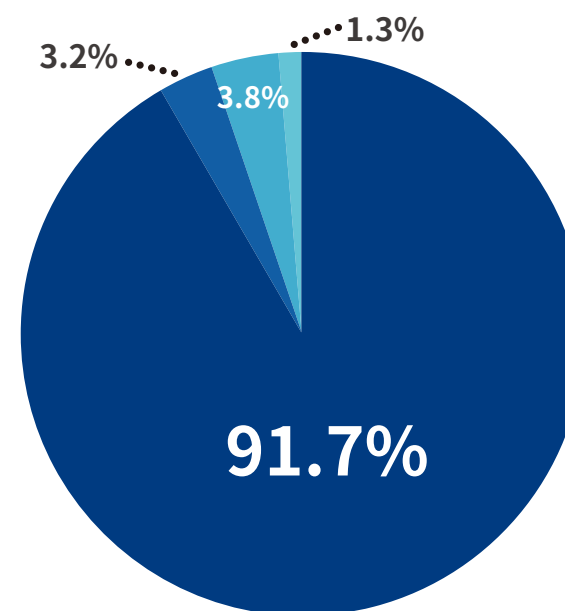
うち 90%以上の人 が 5,000 円以下の支給となり、支給額が高額になるほど
スポット支給の傾向にある。

在宅勤務手当は支給されているか



- 定額支給されている
- 支給されているが条件がある
- スポットで1~数回支給された
- 支給されていない

支給額

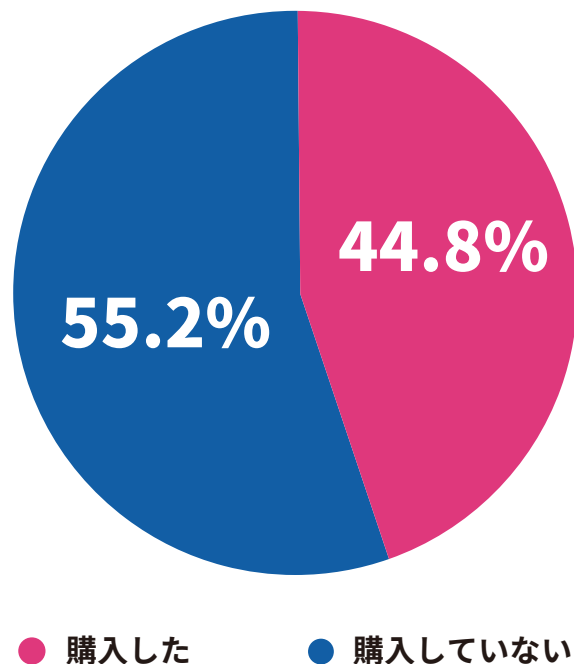


- 5,000 円以下
- 5,001 円~10,000 円
- 10,001 円~20,000 円
- 50,001 円以上

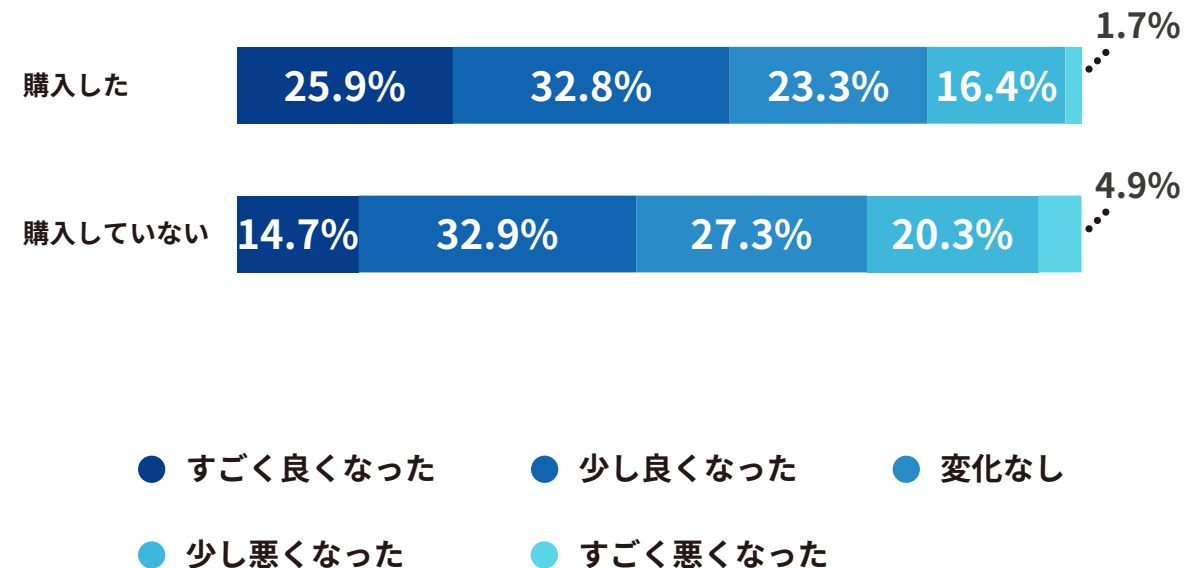
・家具・家電の購入

およそ 45%の人が、在宅勤務導入にあたり新たに家具・家電を購入している。購入した家具はデスク・チェアが多数を占め、次いでモニターやイヤホンなどの PC 周辺機器を購入している人が多い。[※]新たに家具・家電を購入した人のほうが在宅勤務による効率化を実感した傾向にある。 ※自由記入欄の回答より抜粋

新たに家具・家電を購入したか



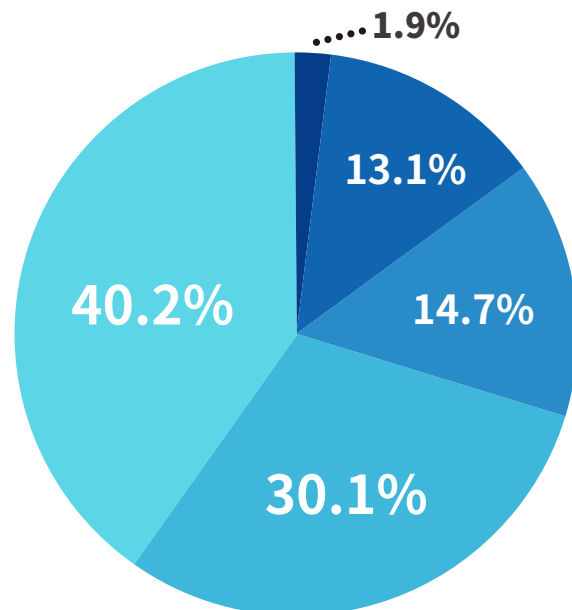
家具・家電の購入と在宅勤務導入後の業務効率の変化



・生活習慣の変化①

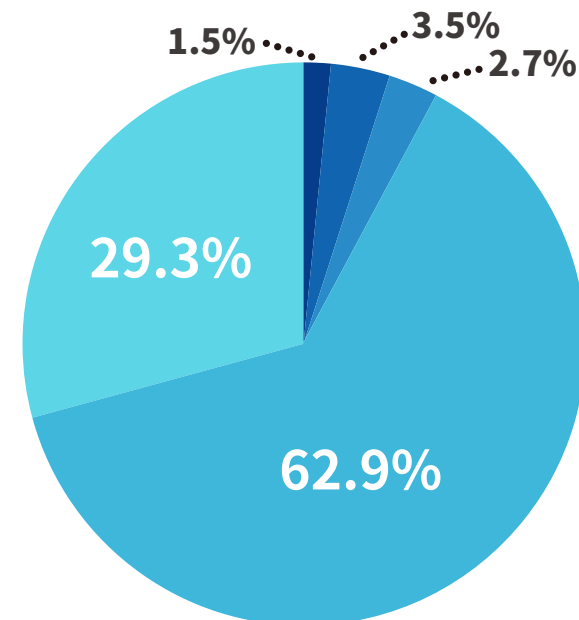
およそ 70%が運動量が減ったと回答。身だしなみについても、62.9%が「時間もお金もかけなくなった」と回答した。

運動量の変化



- すごく増えた
- 少し増えた
- 変化なし
- 少し減った
- すごく減った

身だしなみの変化

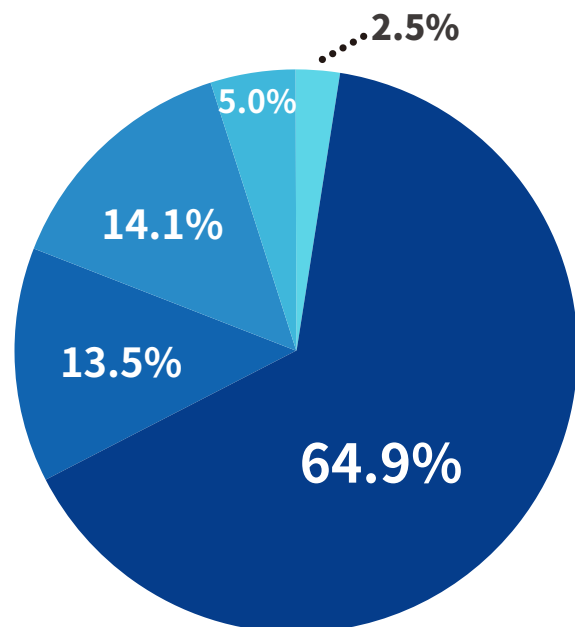


- 時間もお金もかけるようになった
- 時間はお金もかけなくなったが、お金はかけるようになった
- 時間はお金もかけるようになったが、お金はかけなくなった
- 時間もお金もかけなくなった
- 変化なし

・生活習慣の変化②

64.9%がランチを家で食べることが多くなったと回答。在宅勤務になったことで、41.7%が起床後に着替えを行わない（行わないことがある）と回答した。

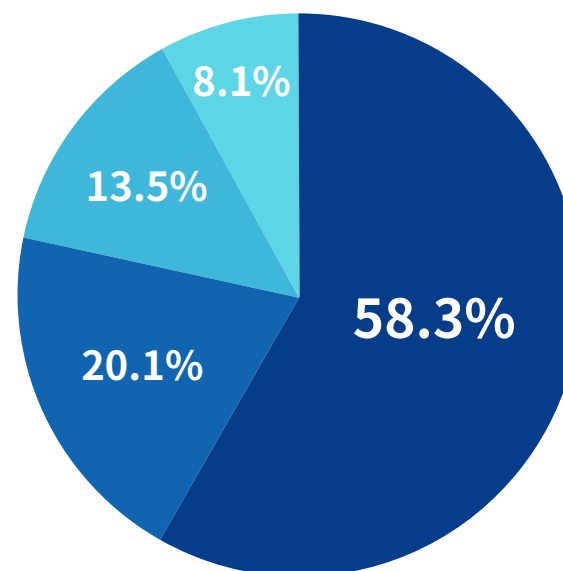
お昼休憩の過ごし方の変化



- ランチを外食することが多くなった
- ランチを家で食べることが多くなった
- 昼休憩の時間が増えた
- 昼休憩の時間が減った
- その他

※複数回答

着替えの変化



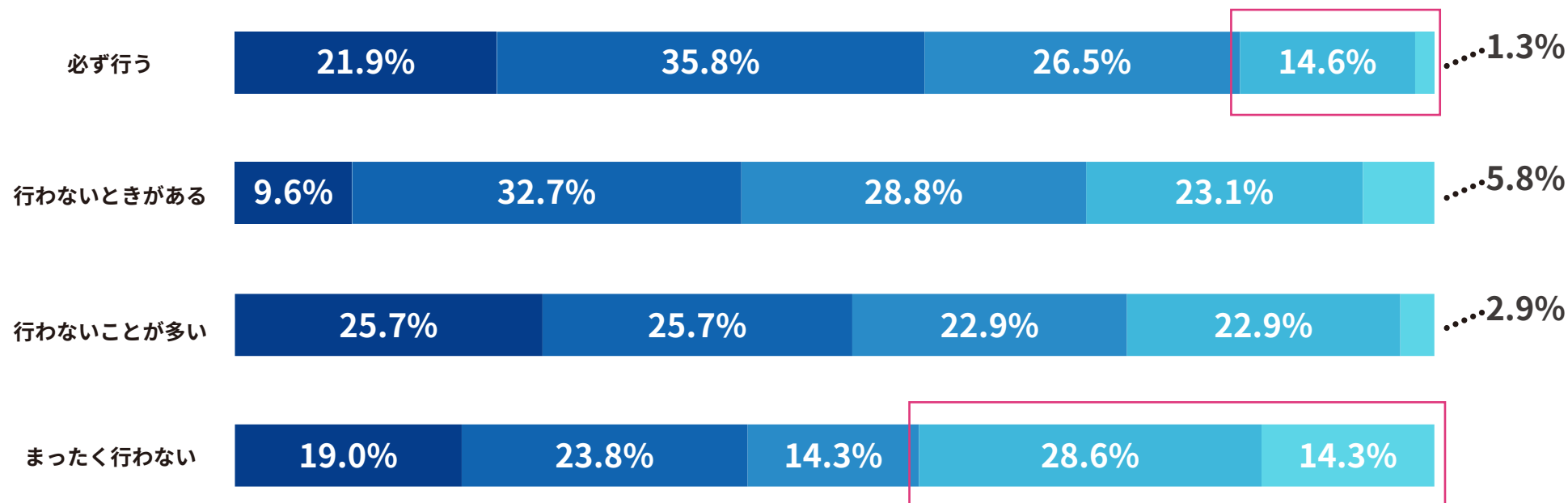
- 必ず行う
- 行わないときがある
- 行わないことが多い
- まったく行わない

・生活習慣と業務効率・業務環境の相関①

生活習慣の変化の中で、着替えの有無と業務効率に相関が見られた。

着替えを必ず行う人とまったく行わない人の比較では、業務効率が悪くなったという回答に27%の差があった。

着替えの有無と在宅勤務導入後の業務効率の変化

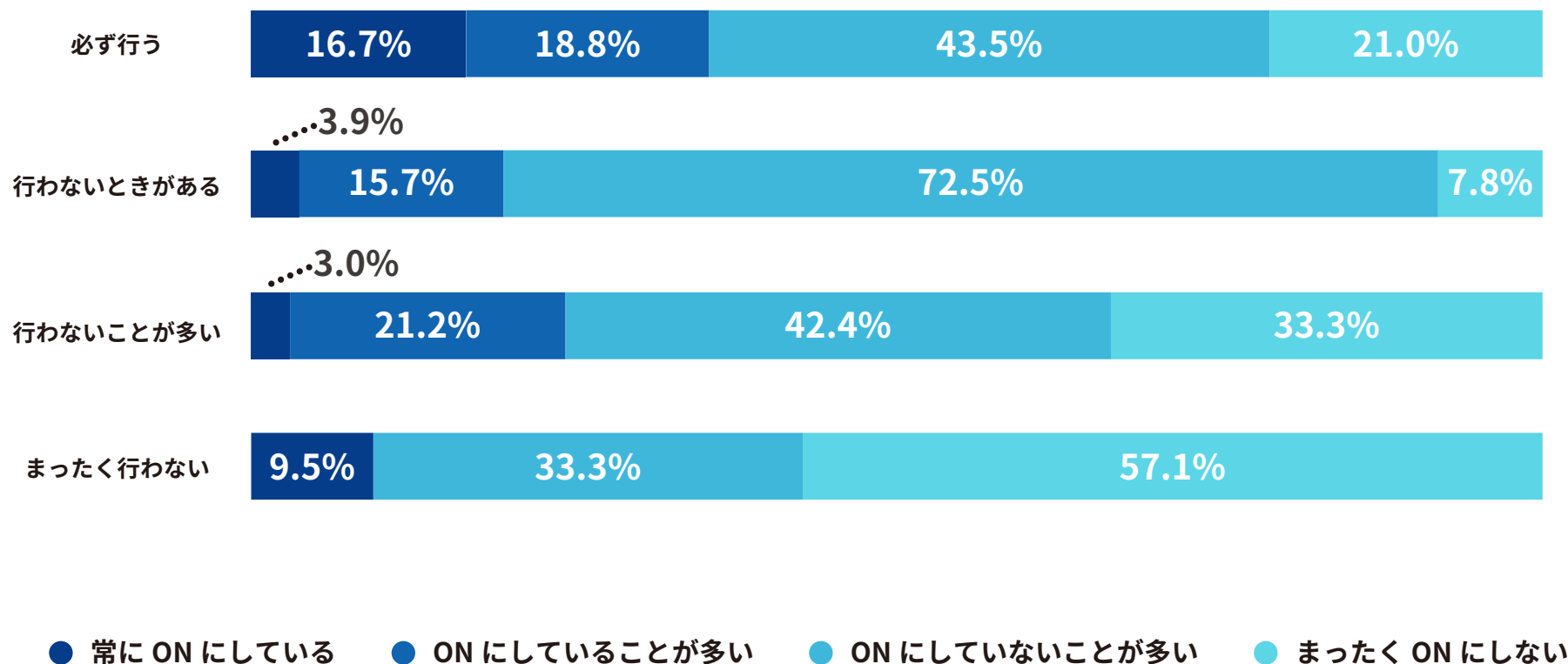


● すごく良くなった ● 少し良くなった ● 変化なし ● 少し悪くなった ● すごく悪くなった

・生活習慣と業務効率・業務環境の相関②

着替えの有無とビデオ会議でのカメラの起動状況にも相関が見られた。
着替えを「まったく行わない」人のうち、57.1%がカメラを「まったく ON にしない」と回答。

着替えの有無とビデオ会議システムでのカメラ起動



おわりに

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、働き方の見直しを余儀なくされたこともあり、在宅勤務が一定程度浸透してきました。本調査は、在宅勤務導入から一定期間が経過した現在において、改めてその意義・有効性を確認することを目的としています。

在宅勤務導入前と導入後の変化はもちろんのこと、こういった環境や姿勢が、在宅勤務での業務をより効率的で有意義なものとできるかという観点で、このレポートがお役に立てれば幸いです。

Bizer team は、在宅勤務を始めとする様々なシーンでチームの業務を可視化・共有し、効率的に進めていただくためのツールです。単なるタスク管理ではなく、より良いチームになるための活動を支援します。

Bizer team

<https://bizer.jp/team/>

お問い合わせ

support@bizer.jp